

絵本『鏡の中のぼく』
～挑戦する自分になる～

授業の流れ（45分）

ねらい→①自己肯定感を高めていくために、対自分とのコミュニケーションを知る。

②これから自分に起こりうる困難を感じるような出来事に対して自分の可能性を制限してしまわないような思考に気付く。

③自分を認めたり、挑戦に向かったり、応援したりするような言葉を考える。

導入（15分）

- 講師自己紹介
- 絵本の読み聞かせ
- 絵本の感想

●講師は親しみを持ってもらえるよう、呼んでほしい名前を伝える。

●絵本を読む。
絵本の感想を自由に答えてもらう。

展開（25分）

- 自分との対話を振り返る
- 自分との会話を発表
- 鏡の中の自分（もう一人の自分）への言葉を考える。
- 発表

●絵本のぼくは、鏡の中の自分（友だち）と会話していたことを話す。

講師が鏡を見ながら、鏡の中の自分の会話をする。

「一日のうちで一番お話をしている人って誰かな？」と問いかけ、実は自分なんだよということを伝える。

鏡の中の自分（講師自身）との会話の事例を話す。

（例）鏡の朝起きた時の話や、最初に鏡を見たときの様子など。

●最近学校であった行事もしくは、近々ある行事などを子どもたちから聞き、そのとき自分がどんな会話をしているか想像し、プリントの吹き出しに書いてもらう。

→書いてもらった吹き出しの言葉を発表してもらう。

●鏡の中の自分への応援の言葉を考えてもらう。

これを言われたら、「よし！がんばるぞ！」と感じられる言葉を考えてもらい、可能な限り発表していただき、声に出してもらう。（板書を入れる）

まとめ（5分）

- 今日伝えたかったこと

●「がんばってみたいけど、できるかな？」「心配だな…」と思ったときに、自分に応援の言葉をかけてみるという方法があることを伝える。

事柄によっては、応援の言葉をかけてもできないこともあるかもしれない。でも、できると言い聞かせることも自分を応援する方法の1つであることを伝える。